

2007 年度 第 23 回

在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



東京・三田の慶應義塾大学にて

RASA－アジアの農村と連帯する会
Rural Asia Solidarity Association

氏名 Maung Kyaw Thin Aung
国籍 ミャンマー
大学 日本大学 文理学部 学部 4 年



(留学目的)

若い頃から日本が好きで日本語を勉強しました。しかし国での大学を通いながら家の [父さん] 仕事を手伝いをして日本語を勉強しましたので日本語の能力がなかなか上がりませんでした。その時ヤンゴンで学生運動が起きて大学がなん度も休校をして勉強をし続けることができませんでした。それに大学が公開しなかったので日本に留学することに決めて本来言語学を教える教員になるつもりである。

(研究課題)

現在私は日本大学文理学部の英文学科の 4 年生になって英文学や英米文学や言語学を勉強していて言語学とアジアの文化や教育にとっても興味があって研究しています。もちろん卒業論文も自分の留学した経験を生かして日本と母国ミャンマーの文化と教育を比較していきたいと思っています。

氏名 金 景鎬 Kim Kyung Ho
国籍 韓国
大学 東京大学 総合文化研究科 博士課程 1 年



(留学目的)

私は日本語と日本文学を長い間研究してきました。そして、妻も同じく博士課程で（お茶の水女子大学）二人とも私費留学生ですが、専門分野をもっと深く研究する一方、日本での生活経験も活かして、将来母国で大学生たちを教えてみたいと思っております。21 世紀の未来志向的な日韓関係を考える若者たちを育てるのが私たちの夢です。

(研究課題)

私は、現在日本近代文学の中で、特に歴史性のテーマを持っている「司馬遼太郎」という作家の作品を中心にして、日本と韓国の国民たちが相手をどうイメージしているのか、そしてそれが文学作品の中でどう表象されているのかを究明して、このような相互認識が 21 世紀の「東アジアの共存と平和維持」にどういう役割を果たすことができるのかを研究しております。

氏名 孔 令亜 Kong Ling Ya
国籍 中国
大学 日本女子大学 家政学研究科 修士課程 1 年



(留学目的)

私は女性としてずっと女性労働者問題に関心を持っています。女性が社会の一員として正しく扱われ、その能力を十分発揮するとともに家庭生活との両立を目指した社会的な取り組みが必要だと考えている。日本と中国の女性の働く問題とその問題に関する対策を分析し、双方に相応しい解決方法を見つけ出し、よりよい政策が実現されるように行うことを目的とする。

(研究課題)

両国の働く女性の実情及びその対策に関するものを研究する。両国の働く女性の現状を調べ、彼女らの問題点と希望を調査し、その問題の共通点と相違点を比較して分析する。さらに両国の問題に関する政策およびその政策の影響を研究し、分析する。

氏名 吳 心尹 Wu Hsing-Yin
国籍 台湾
大学 東京大学 教育学研究科 博士課程



(留学目的)

私は大学時代から教育に関心を持ち、卒業後高校での教職の経験を通し、大学院に進み、教育に関して一層勉強したいという思いが強まりました。特に台湾の教育制度の土台に深く関わっている日本で留学すれば自国以外の教育発展の経験を深く理解できるため、留学することを決意しました。東京大学教育学研究科は、各分野の優れた先生方が学生を指導し、学際的に多角的な視点から研究を進めるのに絶好な勉学の環境だと思います。特に多文化間の環境に置かれる子どもの教育に関心のある私にとっては、子供のしつけや教育の国際比較の専門であられる恒吉先生の下で指導を頂くことは、強く希望したことでした。

(研究課題)

修士論文では台湾における東南アジア系の国際結婚家庭を軸に考察を行いました。博士論文では国際結婚家庭に軸を起しつつも、衆論のデータと知見を基に対象を拡大し、日本人男性と結婚しているトランスナショナルな移民であるアジア系外国人女性とその家庭に焦点を当てます。特に、越境によりマイノリティとなる外国人配偶者が自国の文化や移住先での限定された資源を用い、移住先で如何に見出すか、また、国際児が現地と外国の複数のルーツによる文化資本・社会資本を如何に継受・創造・活用しているかについて、質的な手法で様々な可能性を追求してみたいと考えます。そして、日本における国際結婚家庭の現状を把握し類型化したうえで、台湾との比較を行います。一方で、研究を通し、日本と台湾社会における移民の受入に関する対策や現代家族文化・社会構造の特色や変化を浮き彫りにしたいと思います。

氏名 Tran Dam Tam
国籍 ベトナム
大学 亜細亜大学 経済学部 2年



(留学目的)

ちょうどベトナム戦争(1975)が治まったころはきっかけに、父親が当時南政府の仕事をしたため、新しい政策に巻き込まれた。窮境をしのぐために、兄弟が亡命し、日本政府に受け入れられた。10年後には、国に残った私達も呼びよせてもらった。兄弟が日本の生活に溶け込む努力の最中には、私は援助してもらい、小中高の勉強を励んでいたのです。

難民を受け入れる心優しき場所というイメージから私は強く引かれました。また資源に恵まれるわけでもなく、欧米のもっと先進している国々と並んで、強国という位置を獲得できた日本という国に関心を覚えました。日本の行政の動きかたを始め、福祉システムや日本国民性等を、とにかく全部みてみたかったです。そして吸収した知識を可能性の限り、自分の国でも実践したいのです。

(研究課題)

今後、経済政策コースに専攻しているもので、現時点では社会保障、福祉を始め、経済政策の流れについて研究しています。まだ知識不足なため、今は基礎知識を吸収している段階です。3,4年次には、本格的に日本政府が取り入れようとしている政策によって、国内の税金問題、福祉の様々な課題、東南アジアへの投資の見通し等々がどのように変わっていくかについて考察したいと思っています。

氏名 尹 勝玟 ユン スンミン
国籍 韓国
大学 東京大学 人文社会系研究科 博士課程 1年



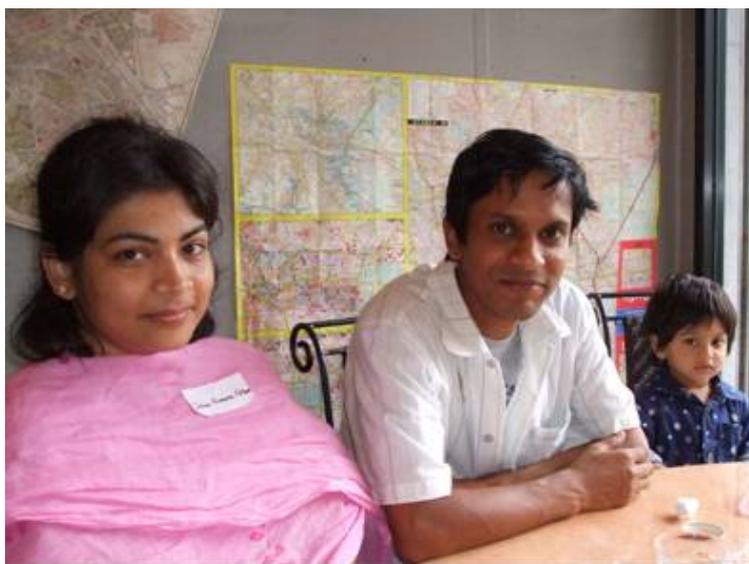
(留学目的)

大学の「日本古典文学史」の授業の時、始めて接した日本古典文学、その中でも永安時代の様々な作品から、当時の自分はたいへん大きなショックをうけた。今から千年も前に、このような美しさ、華やかさ、そして優雅さを感じさせる作品が書かれたという事実からである。その後、日本古典文学、その中でも平安時代に描かれ、日本を代表するともいえる『源氏物語』を本格的に勉強しようと思い、大学の卒業後、大学院に進学した。韓国の大学で修士課程を終えたが、自分の勉強・知識の浅さ、足りなさを痛感し、留学を願うようになった。日本での留学を通しては、単なる知識だけではなく、当時の時代背景などを着実に学びながら、もっと丹念に『源氏物語』をはじめ、日本の優れた諸作品などについて勉強しようと思った。現在、そうした自分の夢について、少しずつ歩んでいっている状態であると思われる。

(研究課題)

修士論文では『源氏物語』の第三部・宇治十帖を中心に、特に八の宮の遺言が物語を動かす原動力としていかに作用し、そのドラマチックかつアイロニカルな構図を作り上げていったかについて自分なりに究明してみた。博士課程では、かような修論での分析をもとにして、言葉の織物としての『源氏物語』の芸術性を明らかにすることを目的に勉強したい。つまり、言葉の皮肉さ、あいまいさなどが、その受け止め側の判断にいかなる影響をあたえ、物語を動かし、長篇化につながるかということなどを中心に、『源氏物語』が現代の現実と向き合いながら、物語世界を織りなしてゆく虚構の方法、具体的にはドラマチック・アイロニーなどのアイロニカルな場面を構成していく方法分析に重点をおきたい。

氏名 Jahan Rumana Akther
国籍 バングラデシュ
大学 筑波大学 科学系領域
博士課程 1年



Jahan さんとご主人とお嬢さん

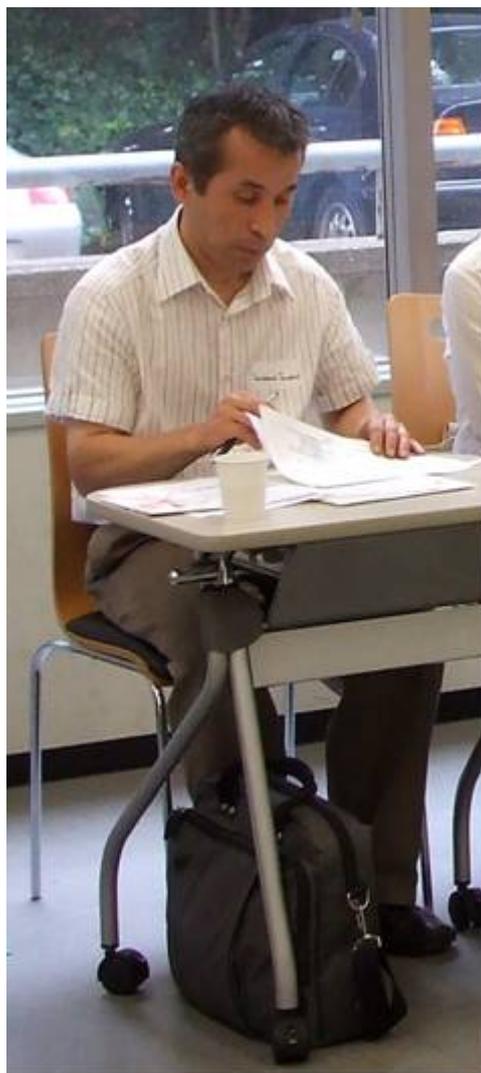
(留学目的)

I had a long cherished aim to get doctoral degree, so that I could make a research oriented career in future and serve the society in this way. Bangladesh is technologically not that developed and its socio-economic structure is not stable enough to provide such support. My country has only few universities & public organization to carry out advanced research. Since Japan is one of the most technologically advanced countries, I chose Japan for getting research opportunities. Also, in Japan, there are many funds and scholarships are available to get higher studies to foreign students which is not possible in our country.

(研究課題)

My research field in the university as a doctoral course student is to carry out a research on different characters of a famous chemical reaction called Belonsov-Zhabotinsky reaction. My research title is “Controlling the turning structures by boundary conditions and external perturbations in a Belonsov-Zhabotinsky system.” The objective of this research is to find out unique self-organized structure in a chemical system which would be a useful procedure of future development of nanotechnology.

氏名 Yarmuhamed Tawakul
国籍 中国・ウイグル自治区
大学 横浜国立大学 環境情報学府 後期博士課程



(留学目的)

日本は世界の先進国に属し、科学技術レベルが高く、生産設備も進んでいます。近年来、環境保護を重視し、多くの人材と物資を投じて、著しい成果をあげました。日本の環境保護知識及び環境保護ために採用する措置とその実施の具体的方法を学びたくて、新しい知識を身に付けて、いっそう専門の特技を発揮して、環境保護の技術が最も発達している

日本で研究を続けてみようと思決心して日本で学びその知識を我が国の人々と分かち合い、更に中国と日本間の科学技術の交流を促進して、両国間の科学技術の交流と国際協力を増加するために貢献する。この地球規模の問題の解決を模索していくつもりで日本へ留学しました。

(研究課題)

神奈川県では、都市への人口集中や流域の土地利用の変化に伴う、降雨の流出形態の変化、水利用形態の変化、水量の生態系の変化などの不安定要素を踏まえ、水資源の安定供給への取り組みが必要です。水利用や人間活動などによる流域条件の変化、安定した供給システムの構築、良質な水資源の確保と保全など明らかにするために水資源環境モニタリング手法及びデータベース構築手法の開発、流域や河川の形態の変化が水環境へ及ぼす影響を解明する。

氏名 辛 恩僖 シン ウンヒ
国籍 韓国
大学 女子美術大学 芸術学 学部3年



(留学目的)

私が勉強したい分野は社会問題と関連があります。美術が直接解決することではないと思いますが、その一部で皆が楽しくなる方法を提案する事は出来ると思います。日本は韓国より経済や社会全般的な流れが10年くらい早いと言われています。また、社会的な問題などを解決する方法も韓国より多いと思いますので、日本へ留学しました。

(研究課題)

アトリエでは美術によって人々が楽しくなるのを経験しました。現代社会には事故によって身体的な障害になる人も、社会的ストレスによって心の障害を持っている人も増えています。それは単純に病気を持つてる人ではないと思います。そのような人も、私たちと一緒に社会を構成する人だと思っています。しかし、私たちは社会的弱者の立場でも、ものごとを見る必要があり、私は美術で探す勉強をしたいです。